

令和4年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書

(令和3年度施策・実施事業分)

令和4年9月

宇陀市教育委員会

はじめに

宇陀市教育委員会では、教育行政のさらなる充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、ここに「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書」（令和３年度施策・実施事業分）をまとめました。令和３年度に執行した教育委員会の主な事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目ごとに分類し、目標の達成状況・進捗状況について教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価しております。本報告書については、市議会に提出いたします。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律〔抜粋〕

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

宇陀市教育委員会

教育長 田淵 泰央
委員 巽 礼子
委員 吉川 壽一
委員 峯畑 忠郎
委員 山本 眞二

1 施策・事業点検及び評価の実施概要

宇陀市教育委員会は、「宇陀市教育大綱」及び年度ごとの「宇陀市学校教育の指導方針」、「生涯学習の振興指針」等に基づき、社会環境や財政状況に弾力的に対応した施策・事業を遂行しています。その具体的な取組に関して目標達成状況等を踏まえた点検・評価を行いました。

今回の点検・評価の対象は令和 3 年度に実施したうちの主な施策・事業です。

2 宇陀市教育行政点検評価支援員

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条第 2 項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが点検・評価をした結果について学識経験者 2 人に点検評価支援員を委嘱し、教育面での効率性・有効性の観点から改善点などについてご意見をいただきました。

施策・事業を見直す上で、点検評価支援員の専門的で中立的な指摘を総合的かつ客観的に捉え、また、真摯に受け止め、職員の意識改革につなげてまいります。

■支援員の氏名

田中 三彦 氏 （宇陀市在住）

樺 啓典 氏 （宇陀市在住）

■点検評価支援員と教育委員会事務局職員による会議開催

令和 4 年 6 月 29 日（水） 午前 9 時～午後 5 時

〔教育委員会が行う事業の概略説明と質疑応答、点検評価支援員からの総括的な意見〕

3 教育委員会の主な運営・活動状況

総合教育会議において、宇陀市の目指すべき教育を「宇陀市教育大綱」としてまとめ、この大綱に基づく 4 つの基本目標とそれらを推進するための 23 項目の基本方針に則って課題に取り組んでいます。

本年度も、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 4 並びに第 14 条及び第 21 条に基づき、次に掲げる教育に関する事務を管理し、執行いたしました。

- ・教育委員会の会議
- ・総合教育会議
- ・教育方針及び教育計画の策定
- ・教育に係る調査及び統計
- ・学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止
- ・事務局及び教育機関の職員の人事
- ・児童生徒の就学
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導
- ・教科書その他の教材の取扱い
- ・事務局及び教育機関の職員の服務及び研修
- ・学校施設及び設備の整備
- ・教職員に対する指導助言
- ・学校保健
- ・学校給食
- ・生涯学習の振興に係る施設の企画及び調整
- ・社会教育の基本計画及び総合調整
- ・社会教育に関する施設の設置及び管理
- ・社会教育団体の指導育成
- ・家庭教育、青少年教育、成人教育及び公民館事業
- ・文化及び芸能の振興
- ・スポーツ・レクリエーションの指導奨励
- ・文化財の保護、活用及び啓発
- ・文化財の指定、調査、研究、記録及び資料の作成 等

(1) 総合教育会議の開催

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、1回開催されました。

■令和3年度第1回宇陀市総合教育会議（令和3年8月6日）

- ・宇陀市立学校の適正化に関する基本的な考え方について

(2) 教育委員会の会議の開催

教育委員会の会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条及び「宇陀市教育委員会会議規則」に基づき、令和3年度は定例会12回と臨時会1回、合計13回の会議を開催しました。

教育委員会の会議は原則公開しており、令和3年度の傍聴者は16名でし

た。

(3) 教育委員会審議案件等の実績

教育委員会の会議では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「宇陀市教育長に対する事務委任規則」の規定に基づき、種々の案件について十分な議論、審議を行いました。

さらに、各担当課から所管する事務について詳細な報告や協議を行うことで、教育委員会と事務局が同一の施策の方針の下で、一層事業が充実、推進されたと考えています。

〈令和3年度の審議案件〉

■4月定例教育委員会（4月21日）

- ・宇陀市教育支援委員会委員の任命について（後任）

■5月定例教育委員会（5月21日）

- ・宇陀市松山地区伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について
- ・宇陀市社会教育委員及び宇陀市公民館運営審議会委員の委嘱について
- ・宇陀市立図書館電子資料提供サービスの利用に関する要綱の制定について
- ・令和3年度宇陀市教育支援委員会結果の答申について

■6月定例教育委員会（6月30日）

- ・令和3年度宇陀市教科用図書選定委員会委員及び調査研究員の任命について
- ・令和4年度使用中学校教科用図書採択に係る諮問について

■7月定例教育委員会（7月21日）

- ・宇陀市学校規模適正化検討委員会条例の一部改正について
- ・令和3年度宇陀市教育行政点検評価支援員の選任について

■8月定例教育委員会（8月27日）

- ・宇陀市県費負担教職員に係る私有自動車等の公務使用に関する取扱規程の一部改正について
- ・宇陀市松山地区街なみ環境整備協議会補助金交付要綱の廃止について

■8月臨時教育委員会（8月27日）

- ・令和4年度使用中学校教科用図書の採択について

■9月定例教育委員会（9月29日）

- ・宇陀市教育委員会押印の特例に関する規則の制定について
- ・宇陀市教育委員会押印の特例に関する告示の制定について
- ・宇陀市県費負担教職員に係る私有自動車の公務使用に関する取扱規程等の一部改正について

■10月定例教育委員会（10月20日）

※審議案件なし

■11月定例教育委員会（11月18日）

- ・令和3年度第2回宇陀市教育支援委員会の審議結果について

■12月定例教育委員会（12月15日）

- ・宇陀市松山伝統的建造物群保存地区保存計画の一部改正について

■1月定例教育委員会（1月19日）

- ・宇陀市学校適正化推進委員会への諮問について
- ・宇陀市公民館管理運営規則等の一部改正について

■2月定例教育委員会（2月16日）

- ・令和4年度宇陀市学校教育の指導方針について
- ・令和3年度宇陀市教育支援委員会（追加分）の審議結果について

■3月定例教育委員会（3月24日）

- ・宇陀市生涯学習施設使用料の減免に関する要綱等の一部改正について
- ・宇陀市社会教育委員及び宇陀市公民館運営審議会委員の委嘱について
- ・スポーツ推進委員の委嘱について

（4）教育委員会の会議以外の活動

■学校訪問

学校長等から、今年度の学校経営の重点項目、教育課程編成上の特色や創意工夫点などについて説明を受け、その後、「学校教育法施行規則」及び「宇陀市立学校の管理運営に関する規則」に基づく次に示す各種表簿を点検しました。

＜各種表簿＞

学校日誌・出勤簿・旅行命令簿・教育計画書（教育課程）
指導要録・健康診断に関する表簿・薬品管理簿等

学校施設・設備の視察・点検を行い、児童生徒等の学習活動・授業の様子を参観しました。

その後、改善点について意見交換を行うとともに、教育の課題を探り、学校長等に対し指導助言を行いました。

奈良県教育委員会が定める「奈良の学び推進プラン」ならびに「宇陀市学校教育の指導方針」に添った教育がなされているか、教育委員、教育長、指導主事及び事務局職員により、次に示す観点で実態を調査しました。

＜実態把握の観点＞

県及び市の学校教育に関する方針に添った重点施策

学校の経営方針・教育課程（教育方針と重点指導）

特別支援教育・道徳・人権教育・生徒指導・研究主題

職員研修・児童生徒の安全確保と危機管理・評価の実施と公開

家庭や地域との連携等

令和３年度は、５月から７月にかけて、小学校６校、中学校４校、幼稚園２園、こども園３園、保育園２園を訪問しました。

〈令和３年度の学校訪問〉

◇しらゆり保育園、大宇陀中学校

５月 25 日

◇榛原幼稚園、榛原小学校

５月 26 日

◇榛原北保育園、榛原中学校

６月 ４日

◇榛原西小学校、榛原東小学校、室生小学校

６月 ８日

◇菟田野小学校、菟田野中学校

６月 ９日

◇大宇陀こども園、菟田野こども園

６月 23 日

◇榛原東幼稚園、室生こども園

６月 28 日

◇大宇陀小学校、室生中学校

７月 ２日

■教育委員・教育長研修等

以下の研修等を通じて、自己研鑽に努めるとともに教育事情調査や教育相談等の日常活動に努めています。

〈令和3年度の教育委員・教育長研修等〉

◇奈良県都市教育長協議会

4月20日 (奈良市)

7月20日 (橿原市)

10月26日 (橿原市)

◇市町村教育委員会オンライン協議会

2月10日 (オンライン)

◇近畿都市教育長協議会定期総会

新型コロナウイルスの影響により中止

◇近畿都市教育長協議会研究協議会

新型コロナウイルスの影響により中止

◇全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会

新型コロナウイルスの影響により中止

◇近畿市町村教育委員会研修大会

11月1日 (尼崎市)

◇奈良県市町村教育委員会連合会会議

新型コロナウイルスの影響により中止

◇奈良県市町村教育委員会研修大会

11月10日 (田原本町)

4 各施策・事業の取組状況と支援員の意見

各施策・事業点検評価シートは、「宇陀市教育大綱」に沿って、項目ごとに主な施策・事業を点検し、評価した結果です。

シート中の「達成度」「必要性」「有効性」とは、教育委員会が次の基準により判断したものです。

- | | | |
|---|------|----------------------------|
| A | 高い | (概ね期待通りの成果が上がり、目標を達成できた。) |
| B | やや高い | (ほぼ目標を達成したが、改善の余地がある。) |
| C | やや低い | (目標をあまり達成できなかったので、改善を要する。) |
| D | 低い | (目標を達成できなかった。) |

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）一覧

宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業		自己評価			今後の方針
		達成度	必要性	有効性	
1 社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう					
1	小中学生基礎学力向上事業	B	A	A	1
2	教職員の研修事業	A	A	A	2
3	就学援助事業(就学援助・特別支援教育就学奨励費支給)	A	A	A	3
4	宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業	B	A	A	2
5	外国語活動指導助手設置事業	B	A	A	2
6	小中学校情報機器等の活用	B	A	A	1
7	適応指導教室運営事業	A	A	A	1
8	プログラミング教育の導入に伴う調査・研究事業	B	B	B	2
9	新型コロナウイルス感染症対応学校教育活動支援事業	A	A	A	3
10	宇陀市学校適正化推進事業	B	A	A	2
11	図書返却ポスト回収等事業	B	A	A	2
12	図書館機能充実事業	A	A	A	2
2 家庭の豊かな教育力を育もう					
13	学校給食賄材料購入事業	B	A	A	2
14	新学校給食センター建設事業	A	A	A	1
15	教育相談事業	A	A	A	1
16	働く子育て世代の図書館利用の充実事業	C	A	B	2
3 地域全体で子どもを見守ろう					
17	子どもフェスタ事業	—	A	A	3
18	青少年健全育成活動	A	A	A	2
19	子ども活動支援事業	A	A	A	2
4 「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう					
20	通級指導教室運営事業	B	A	B	1
21	市美術展事業	A	A	A	2
22	公民館管理運営事業	A	A	A	2
23	各種講座・教室事業	A	A	A	2
24	社会教育推進講座事業	B	A	A	2
25	宇陀シティマラソン事業	—	A	A	2
26	市民スポーツ大会事業	A	A	A	2
27	近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部	A	A	A	2
28	総合体育館・総合運動場運営事業	B	A	A	2
29	室内温水プール及びテニスコート管理運営事業	B	A	A	2
30	小学校水泳教室事業	—	A	A	2
31	水泳教室事業	B	A	A	2
32	宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業	—	A	A	3
33	大人のための運動教室事業	A	A	A	2
34	成人式事業	A	A	A	2
35	文化財保存修理等補助事業	A	A	A	2
36	薬の館管理運営事業	A	A	A	2
37	重要伝統的建造物群保存地区保存事業	A	A	A	2
38	埋蔵文化財発掘調査事業	A	A	A	2
39	史跡宇陀松山城跡保存整備事業	A	A	A	2
40	史跡森野旧薬園保護事業	A	A	A	2
41	国指定天然記念物等保護再生事業	A	A	A	2
42	寄贈資料の管理運営事業	B	A	B	2

自己評価 「A」高い「B」やや高い「C」やや低い「D」低い「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可
 今後の方針 「1」さらに重点化する「2」現状のまま継続する「3」見直しの上、継続する「4」事業の縮小・休止を検討する

事業番号	1
担当課	教育総務課

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】家庭学習や授業の項目については年々改善されている。UDAスタンダードが定着していると言える。この事業を継続して実施する中で、宇陀市学力調査の最後にある作文問題については、いずれも改善し、無回答率も減っている。改善された要因となる実践についても先生方に周知することができた。				
		【課題】市・国の学力テストにおいては、全ての分類で全国より低い傾向にあった。特に国語科においては小中ともに記述式の問題に対して低い正答率となっており、算数科・数学科に関しては、「図形」に関する領域で課題が見られた。また、幼小中連携については、コロナ渦によりなかなか進んでいないため、効果的な取組をモデルとして市全体で取り組んでいくことが必要である。				
	達成度	B	必要性	A	有効性	A

点 検 評 価 支 援 員 の 意 見	学力テストが、全国平均を下回っていることに関しては、関係者はしっかりと認識しなければならない。市全体で、地道に弱点を克服しなければならないが、テストのみを意識する学習になってはならない。去年と比べて少しでも弱点を克服できたかという足元を見据えて取り組んでいただきたい。 「学力テストの結果、宇陀市は全国平均より低い傾向にあった」とのことであるが、宇陀市の子どもの力が劣っているとは思えない。宇陀市の子どもの学力は向上していると思う。しかし、宇陀市以上に向上している地域が多かったので、平均値では低くなるということだと考えられる。学力テストで上位に入っている自治体の取組を参考にする等の具体的な手だてを期待したい。
--	--

今後の取組	市全体で、宇陀市の子どもたちの弱点を共有していく。
	令和4年度は、全国との比較及び、宇陀市の経年比較を基に、小中とも克服するポイントを絞って取り組んでいく。

9

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	2	
事業の情報	事業名	教職員の研修事業			担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう			
		Ⅲ基本方針	①学ぶ意欲の向上と家庭学習の習慣化及び教職員の資質・能力の向上			
	事業の目的・内容	【目的】宇陀市の教育に関わる独自課題、今日的課題の職員研修を行い、教職員の資質・能力及び指導力の向上を図る。 【内容】 宇陀市教育センター研修（6回） 宇陀市初任者研修（2回） 宇陀市特別支援教育コーディネーター研修（3回）				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】実施した研修に参加した教職員の8割程度が「とても参考になった。」と肯定的に答えていることから、一定の成果があったものと考えている。また、特別支援教育に関する研修は人材育成・指導力の向上の点からも計画的に実施することで、コーディネーターを中心にした学校の対応力につながっている。				
		【課題】幼小中連携を進める中で、校種別の研修のみならず、校種間の接続を踏まえた研修も必要であるとする。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	教員のニーズに合う研修項目（課題に応えられる）の充実と資質の向上が求められる。教員の働き方改革にも対応できる研修が必要である。 自分の指導力の向上を願わない教員はいない。しかし、願うだけでは指導力は向上しない。そこで、研修が必要になる。PDCAサイクルで子どもと向き合いながらの研修を繰り返すことで、指導力は必ず向上する。他の教員との情報交換も有効である。だから、本事業の必要度は高い。しかし、研修に注力する時間的余裕や心身の余裕が、今の教職員にあるのだろうか。本事業の成否は、教職員の働き方改革と密接に関連しているとする。
------------	--

今後の取組	宇陀市において課題となっていることに対しては研修会を実施し、教職員の指導力向上を図っていく。研究所で実施されている研修内容と重ならないように検討し、オンラインや伝達形式での実施など、教員の働き方改革に配慮して実施していく。	方針	2
-------	--	----	---

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	3
事業の情報	事業名	就学援助事業（就学援助・特別支援教育就学奨励費支給）		担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう		
		Ⅲ基本方針	③健やかな心身と安全な生活を保持増進できる子どもの育成		
	事業の目的・内容	【目的】経済的な理由等によって就学に必要な費用の支払が困難な保護者に対し、その一部を援助し、義務教育の円滑な実施に資する。 【内容】学用品費、給食費、修学旅行費等、就学に必要な費用の支払が困難な保護者に対し、必要な費用を給付する。対象者は宇陀市内の小中学生及び特別支援学級に在籍する小中学生等である。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】 令和3年度の支給者数は小学校86人、中学校57人、特別支援82人であった。				
		【課題】特別支援対象の学用品費の給付に領収書が必要であった。しかし、文部科学省からの通知により、保護者と事務手続の負担軽減のため、令和4年度中に要綱を変更し、令和5年度からは領収書不要で定額支給できるように実施することが課題である。				
		達成度	A	必要性	A	有効性

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	コロナ禍では、対象の児童生徒が増加する可能性がある。しっかりと継続して、子どもの教育を受ける権利を守らなければならない。 子どもたちの教育を受ける権利を保障するために、必要不可欠な事業であり、今後も円滑に運用されることを望む。
------------	---

今後の取組	経済的な理由等によって就学に必要な費用の支払が困難な保護者を支援し、子どもたちが教育を受けれるように今後も事業を継続していく。		
	円滑な事務手続のため、宇陀市特別支援教育就学奨励費支給に関する要綱を変更し、令和5年度からは領収書不要で定額支給できるように実施する。		
		方針	3

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

事業番号	4
担当課	中央図書館

事業の情報	事業名	宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業		担当課	中央図書館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう		
		Ⅲ基本方針	④夢に向かって粘り強く挑戦し続ける子どもの育成		
	事業の目的・内容	【目的】市内の小中学校の児童生徒が、「調べる学習」を通じて、「自ら考え、課題を解決する力」や「生きる力」を養い、それに伴い図書館の利用が一層促進されることを目指す。 【内容】市内の小中学校の児童生徒が、学校・公立図書館の資料や自らが観察、実験するなどして様々な情報を活用し、「調べる学習」を行い、コンクールに応募する。「調べる学習」により主体的に学ぼうとする意欲、知的好奇心を育む。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】小学校5校から12作品の応募があり、5作品を選出のうえ表彰する。うち上位2作品を全国コンクールに出展した。応募の結果、2作品が佳作に入賞する。「調べる学習」の実施により、各々の児童が自ら決めたテーマに基づき、学習を進めることにより、目標達成に向け、取り組むことができた。				
		【課題】今後、一人でも多くの児童生徒がこの事業に取り組んでいただけるよう、学校と連携し、周知及び実施方法の工夫に努める。				
	達成度	B	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	この事業は、量より質（内容）が重要と思われる。保護者に周知を行い、児童生徒の興味ある分野を深く追及し、専門性を高めていただきたい。学校との連携も重要である。 ここ数年間、中学生からの応募がない。目的に「小中学校の児童生徒」とあるので、中学生からも応募されるような工夫が必要と思われる。子どもたちには好奇心があり、知らないことを知るために調べることの楽しさを体感させてあげたい。少し背中を押してあげれば、自ら調べようとする子も多いのではないと思われる。しかし、働き方改革が進む中、その役割を学校に求め過ぎてはならない。子どもの興味・関心を大切に家庭教育が大切で、そのための保護者への啓発が重要であると思われる。
------------	--

今後の取組	幼少期からの読書活動や図書館利用の積み重ねが調べる学習につながるとされるため、事業に関心をもってもらうための特集コーナ等の設置や参考になる図書資料の充実を図る。		
	学校との連携により、保護者にこの事業のPRを行う周知方法を検討し、応募に結びつけられるように働きかけていく。		
		方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	5
事業の情報	事業名	外国語活動指導助手設置事業		担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう		
		Ⅲ基本方針	⑤情報活用能力を備えた国際感覚豊かな子どもの育成		
	事業の目的・内容	【目的】子どもたちに生きた英語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成とコミュニケーション能力の素地の養成を図る。 【内容】市内全小学校にALT（外国語指導助手）を配置し、外国語活動の授業でクラス担任と連携し、新学習指導要領におけるチームティーチングを行う。小学5、6年生のクラスに対し年間30回、小学3、4年生のクラスに対して年間15回、小学1、2年生のクラスに対し年間10回ALTを派遣した。（外国語活動及び国際理解に関する教育の補助・外国語教材作成の補助）幼稚園、こども園、保育園、子育て支援センターに年間各10回訪問し、外国語活動を行った。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】ALTと直接触れ合うコミュニケーション体験が子どもたちのグローバルな見方や考え方を深め、「ことば」としての外国語を使う力と、外国や外国文化に関わる力を高めることができた。また、小学校外国語科指導者研修を実施し、ALTトレーナーによる模擬授業を教員に体験してもらうなど、教員の指導力向上を図った。 4月当初から確実にALTの配置ができるよう、単年度派遣契約ではなく3ヵ年派遣契約に変更し、令和4年度以降のALTを確保した。 【課題】令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、ALTが入国できず配置が遅れた。また、「English Village～英語村で遊ぼう2021～」についてもオミクロン株の蔓延により実施できなかった。					
		達成度	B	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	日本人にとって、幼い時期から外国人にふれ、外国の文化を吸収することは将来有効になると考えられる。コロナ渦の中でもオンラインで学習することも可能なので、工夫して事業が滞ることのないように、継続していただきたい。
	コロナ禍により、当初の計画通りに進められないこともあったようだが、模擬授業の実施やALTの3年契約など新たな進展が見られたことは評価したい。幼少期の子どもたちの外国語活動の充実を望む。

今後の取組	小学校の教科化が進む一方、英語専科教員の配置が進んでいない現状において、小学校へのALTの配置日数の確保は必須である。今後においても義務教育9年間の全体像を把握した上で、GIGAスクール端末を積極的に利用するなど、ALTの活用方法を工夫するとともに、外国語教育の更なる充実を図り、小学校における学びを中学校につなげていく。 就学前施設においては小学校の英語教育との連続性に重点を置き、子どもたちが英語に親しみ楽しめるものとなる内容となるよう更なる充実を図る。
	方 針 2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	6
事業の情報	事業名	小中学校情報機器等の活用		担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう		
		Ⅲ基本方針	⑤情報活用能力を備えた国際感覚豊かな子どもの育成		
	事業の目的・内容	【目的】小中学校の児童生徒への1人1台端末を活用し、変化が激しく予測不可能な社会において、自ら未来をたくましく切り開いていく資質・能力を身に付けさせる主体的・対話的で深い学びの視点にたった学校教育を目指す。 【内容】 学びの充実を図るため、デジタル教科書・教材の活用を進める。 学習の中で課題や目的に応じて、インターネット等を用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析推敲しながらの文書作成や、資料、作品の制作を行う。 非常時における児童生徒の学びの保障の観点からも、端末を持ち帰り、自宅等での学習においても活用する。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】デジタル教科書を大型モニターに提示することにより、どの部分の説明をしているのかが視覚的に分かるため、指示や説明内容なども理解しやすくなった。また、動画や音声等を併せて使用することで、学びの幅を広げたり、内容を深めたりすることができた。調べ学習や家庭学習の課題等について、自らの疑問について深く調べることができ、自分にあった進度で学習することが可能となった。 出席停止中の児童生徒に対して同時双方向型のオンラインを活用した学習指導ができた。 【課題】活用頻度について、学校間（教師間）でばらつきがあるため、効果的な活用方法等、好事例を学校間で共有し、今後活用の平準化をしていく必要がある。				
		達成度	B	必要性	A	有効性

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	デジタル教科書を活用するためには、学校間での差があってははいけない。教員の研修が不可欠である。保健室登校の児童生徒にも活用できる。 成果の欄に「自らの疑問について深く調べることができた」とあるが、本当に「深く」なのか検討する必要がある。ネットで検索し、出てきたことをコピーして終わりなら、深く調べたことにはならないし、理解も深まらない。作文を書いているとき、漢字が分からなくなり、キーボードで変換し確かめる子がいた。速くて便利だが、書き順や漢字の意味は分からない。情報活用能力とは、たくさんの情報の中から、最も必要で適切な情報を選び出すことと捉えたい。速さや便利さに惑わされない指導が大切である。
------------	--

今後の取組	各学校の端末利用の平準化を図るために、好事例を共有するための研修会等を開催し、教職員のスキルアップを進めていく。 端末を利用し文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにするための学習活動を充実する。あわせて視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用も学習内で進めていく。			
	方 針		1	

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	7	
事業の情報	事業名	適応指導教室運営事業			担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう			
		Ⅲ基本方針	⑥いじめや不登校等に対する支援の充実			
	事業の目的・内容	【目的】宇陀市内小中学校の不登校児童生徒の自立を図り、在籍校への復帰を促すとともに、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲化を図る。 【内容】個々の状況に応じた適切な指導や相談に応じるとともに、学習機会を確保する。また、子どもの不登校に悩んでいる保護者や教職員に対しての相談業務も行う。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】令和3年度は当初4名の通室生徒でスタートし、仮入級を経て年度末の時点では7名に増えた。また、令和3年4月より開室日が週2日から週3日に増え、不登校児童生徒の「心の居場所」として確立してきている。				
		【課題】通室しているのは、不登校児童生徒の一部であり、まだ多くの不登校児童生徒がおり、その子どもたちや保護者への適切な働きかけが必要である。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	不登校児童生徒は、様々な理由によるものと考えられる。将来のためにも学習機会を損なわないようにしなければならない。大事な時期に決して勉強から離れることなく過ごすためにも保護者への働きかけが重要であると思われる。
	不登校に陥ってしまう原因は、個々に違う。中には、今は登校しない方がよい場合もあるかもしれない。（いじめ、うつ等）心身の回復のためには、不登校が必要な場合もあると思われる。成果として挙げられているように、個に応じた「心の居場所」があることが大切なのだと思う。そして、このことは保護者に是非理解していただきたいことである。そのための働きかけが重要と考える。

今後の取組	週3日の開室日を維持し、不登校児童生徒の「心の居場所」として進めていき、また、在籍校への復帰を促す。			
	学校と情報を共有しながら個に応じた指導をし、その上で学習の機会が失うことのないように努めていく。			
		方	針	I

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	8
事業の情報	事業名	プログラミング教育の導入に伴う調査・研究事業		担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう		
		Ⅲ基本方針	⑦時代の変化に対応した最適な教育環境の充実		
	事業の目的・内容	【目的】平成29年3月に告示された新学習指導要領において、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられ、「プログラミング的思考」を育成するため、令和2年度から小学校においてプログラミング教育が必修化された。市で必要な教材、通信環境等の準備、整備を行ってきた。 【内容】 教育委員会で整備したプログラミング関連教材の活用推進。 ICT活用に関する知識と実践力を有し、市をリードしていく教員の育成。 プログラミング教育の指導案などの共有。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】本事業で教材を揃え、年間計画を作成し、担当者会を開き、研修を行うことを通して、各小学校の教育課程に位置付けて実施する体制が整った。 各小学校においてプログラミング教育が円滑に導入され、浸透してきたので、本事業の当初の目的は概ね達成できたと考える。				
		【課題】今後この体制を維持し、新たな教材が必要な場合は購入を検討する。また、令和2年度途中より導入された一人一台端末を利用したプログラミング教育の充実を図る。				
	達成度	B	必要性	B	有効性	B

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	本事業に関しては、新学習指導要領により必修化されたものであり、一人一台の端末等確保でき、他市町村と遜色のないように執行されたい。 各小学校の教育課程に位置づけて実施する体制が整ったことは評価したい。今後は、「一人一台の端末を利用したプログラミング教育の充実を図る」とされているが、一人一台の端末については、いじめの道具になる可能性がある、理解力や考える力が育たない等、負の側面を指摘する報道もある。端末を正しく有効に活用するための指導も重視する必要がある。
------------	--

今後の取組	一人一台端末を利用して、プログラミング教材を利用できるように付属品の購入を検討する。			
	端末を使用した指導案の提供を実施する。			
	ICT活用に関する知識と実践力を有し、市をリードしていく教員の育成し、市内の学校に伝達研修を実施する。			
	情報モラル教育については、各教科の指導の中で身に付けさせる。また、学校と家庭とが協力して進めていく。			
		方	針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	9
事業の情報	事業名	新型コロナウイルス感染症対応学校教育活動支援事業		担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう		
		Ⅲ基本方針	⑦時代の変化に対応した最適な教育環境の充実		
	事業の目的・内容	【目的】新型コロナウイルス感染防止のための少人数に分けた学習指導や学習の定着が不十分な児童生徒に対し、個別にきめ細やかな学習指導を行うための人員配置及び感染症対策として校舎内の消毒などの業務を支援する人員配置を行うことで教員の負担軽減を図る。 【内容】希望のあった6小学校と2中学校に学習支援員を配置するとともに、市内全ての小中学校にスクール・サポート・スタッフを配置する。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】学習指導員を配置した学級の担当教員26名を対象にしたアンケート調査で、100%の教員が「支援の必要な児童生徒の学習活動が充実した」と回答した。また、スクール・サポート・スタッフを配置した全ての小中学校の教員の平均在校等時間について、7校で前年度比10%未満の減少が見られた。 【課題】学習指導員について、コロナに係る臨時交付金を財源としているが、学校には常に個別にきめ細やかな指導を必要とする児童生徒が在籍するため、コロナ終息後の財源確保が課題である。また、スクール・サポート・スタッフについて、十分に活用できなかった学校があった。				
		達成度	A	必要性	A	有効性

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	きめ細かな指導を求めるにはこのサポート体制の継続が必要である。スクール・サポート・スタッフについては、学校が必要とする業務について、事前に説明し了解した者について従事していただく必要がある。
	成果の欄に、「スクール・サポート・スタッフを配置した全ての小中学校の教員の平均在校等時間が、前年度比10%未満の減少が見られた」とある。まさに、働き方改革となっている。余裕のできた時間を使って、教員は明日の授業準備を充実させることができる。本事業はコロナ対策のためのものであるが、教職員の働き方改革のため、継続すべき内容が多い。

今後の取組	本事業については、教員の負担軽減と子どもの学習保障の2つの観点から大変有効であったことが、検証結果から証明されている。新型コロナウイルス感染症対策として始まった事業ではあるが、教師が本来の業務である児童生徒の学力向上のための仕事に専念できるように、事業継続のための財源及び人員の確保に努めたい。			
	方	針	3	

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	10	
事業の情報	事業名	宇陀市学校適正化推進事業			担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう			
		Ⅲ基本方針	⑦時代の変化に対応した最適な教育環境の充実			
	事業の目的・内容	【目的】宇陀市学校規模適正化検討委員会答申に基づき、小中学校の適正化を具体的に推進し、これからの子どもに必要な教育環境の整備に取り組む。 【内容】小中学校の適正化を具体的に推進する「宇陀市立学校適正化基本計画」を策定するため、「宇陀市学校適正化推進委員会」を設置し、小中学校の適正化及び教育内容の充実に関することについて2年間かけて審議し、教育委員会に答申する。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】12月末までに20名の委員を選定し、翌月21日と3月18日に「宇陀市学校適正化推進委員会」を開催することができた。委員の選定に当たっては、学校の直接の受益者である児童生徒の保護者から積極的な参加が見られ、公募委員も3倍の競争率であった。また、推進委員会の開催に当たっては、学校・園、自治会と連携して、市内全ての学校・園の保護者、地域住民の意見を吸い上げるシステムを構築できた。				
		【課題】十人十色の保護者や地域住民の意見を、今後、2年間という限られた推進委員会の中で円滑にまとめていくことである。				
	達成度	B	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	宇陀市の将来の学校の在り方については、幅広い分野からの意見を聞く必要がある。将来を見据えた学校のあり方を就学前の保護者の意見も取り入れて、地域性にこだわらず禍根を残さないように議論していただきたい。 コロナ禍で、回覧文書やメールでの連絡が主となり、一部の自治会の話合いがほとんどない状況が続いている。「地域住民の意見を吸い上げるシステムを構築できた」ということであるが、実際に機能しているのか点検しながら今後の協議を進めていただきたい。未来の宇陀市を左右するかもしれない重要な事業なので、細心の配慮を求める。
------------	--

今後の取組	推進委員会の設置に当たり、事務局が各地区の学校・園のPTAや自治会の会議の中で、推進委員会の審議内容について、保護者や市民へ周知する方法や意見を集約し、推進委員会への反映するシステムについて説明し、合意を得ている。さらに、要望があれば、進捗状況を報告するために地域に出向くことも伝えている。 今後もこれらの手立てが有効に機能しているか検証しながら、市民の意見を推進委員会に十分反映できるように努める。	方針	2
-------	--	----	---

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度(令和3年度施策・実施事業分) 点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	11	
事業の情報	事業名	図書返却ポスト回収等事業			担当課	中央図書館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう			
		Ⅲ基本方針	⑦時代の変化に対応した最適な教育環境の充実			
	事業の目的・内容	【目的】市民の生涯学習・情報発信の拠点として、資料の収集及び提供に努め、市民サービスの向上を図る。 【内容】インターネット及び電話による図書貸出の予約を受け、大字陀・菟田野・室生の公民館への配送サービス（受取場所の設置）及び各地域に設置の返却ポストの回収を行う。また、大字陀図書館や、各幼稚園・保育所等、小中学校への団体貸出の回送を行う。（回収・回送業務については、シルバー人材センターへの委託により実施）				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】 図書の返却ポスト及び受取場所の設置は、利用者の利便性の向上に必要である。また、各園所・小中学校への図書の団体貸出事業の実施においても、回送業務があつてこそ対応が可能となっている。 ・令和3年度返却ポスト利用冊数 13,340冊 ・〃 団体貸出利用冊数 16,383冊 【課題】返却ポストの利用は、市民の方々に浸透してきているが、各地域での受取場所については、一部の方の利用に留まっている。図書館サービスを利用できる手段として利用方法についての周知が必要である。					
		達成度	B	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	図書の貸出について、コロナ禍の中、集客施設等に行くことをためらうこともあり、団体貸出が増加しているのは、喜ばしいことである。この事業の周知方法を具体的に示し、活用を広げていただきたい。
	コロナ禍にも関わらず、団体貸出利用冊数が昨年より倍増していることは大きな成果である。課題に挙げられている利用方法の周知については、まず具体的な方法を設定し、それを実行し、その結果を評価し、必要に応じて修正すること(PDCAサイクル)を実行する必要がある。

今後の取組	貸出の受取場所への配送サービスについては、図書館だよりや広報媒体を通じて情報発信を行い、利用者サービスの向上に努める。 団体図書の貸出については、今後も幼稚園や保育所等、小中学校と連携を図りながら授業等で更に活用してもらえよう進める。
	方針 2

※方針は次の1~5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	12
事業の情報	事業名	図書館機能充実事業		担当課	中央図書館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	①社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう		
		Ⅲ基本方針	⑦時代の変化に対応した最適な教育環境の充実		
	事業の目的・内容	【目的】市民の皆様に『いつでも、どこでも、誰でも』読書を楽しむことができる生涯学習環境をつくることを目指し、読書活動の推進を行う。 【内容】子ども読書活動推進計画の内容を受けて、幼稚園、保育所等及び小中学校との連携強化を図ることにより、子どもたちに図書館の魅力を発信し、図書館機能の充実を図る。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】 (令和3年度の利用状況) 利用人数 32,101人 貸出冊数 115,936冊 購入冊数 2,223冊 (電子図書利用状況) 7月以降 利用人数 228人 貸出冊数 823冊 購入冊数 1,471冊 コロナ対策を行いながら徐々にお話会等を実施し、保育や教育現場の中で本の読み聞かせを行うことで、子ども達に本に親しむ機会を提供することができた。また、感染予防対策の一環として電子図書を7月から導入し、図書館に来なくても本を読むことができるサービスを拡大し、図書館機能の充実を図ることができた。 【課題】感染対策を行い、全ての市民に身近で親しみやすい図書館としての機能を果たせるよう機能の充実を図る。					
		達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	榛原地域内に書店がなくなり、多くの人が本と親しむ機会が奪われている。このため、特に、図書館の重要性が増している。現存の図書館は、旧榛原町時代に建設されたもので、築30年以上が経過している。宇陀市に適合する新しい図書館施設が必要であると思われる。
	コロナ禍の中、お話会の実施や電子図書の導入など、状況に合わせて今できることに真摯に取り組む、成果をあげている。

今後の取組	図書館としては、財政的な課題もあるため、今後は、利用しやすい図書館運営に努め、安定したサービスが継続できるよう目指していく。 電子図書の提供等により、今後も新しい生活様式や幅広い年齢層に対応した学習機会の提供に努める。	
	<table> <tr> <td>方針</td><td>2</td></tr> </table>	方針
方針	2	

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	13
事業の情報	事業名	学校給食賄材料購入事業		担当課	学校給食センター
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	②家庭の豊かな教育力を育もう		
		Ⅲ基本方針	⑩自他の命を大切にする 思いやりの心をもった子どもの育成		
	事業の目的・内容	【目的】子どもたちに「安全で安心なおいしい給食」を提供することや、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、学校給食地産地消促進事業として数値目標を掲げ、市の予算措置により賄材料の地産地消を推進する。 【内容】国産物資、国内加工、無添加食材を基本として購入する。また、食材の安全性などを図るため、奈良県学校給食会と連携し、積極的に情報収集を行う。それから、アレルギー対応については、園・小・中学校と連携を図りながら保護者が安心できるような対応を心掛ける。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】使用食材の安全衛生管理を徹底するための方策は、①食材の産地表示の義務化②加工食品は、原材料及び産地の確認③学校給食衛生管理基準に基づく食品検査である。アレルギー対応は、献立の成分内容（アレルゲン）の明確化によるアレルギー除去食対応をした。（内容についても、保護者及び学校に情報提供を行う。） 地産地消を推進するため、地場産物（市内・県内産）を積極的に購入した。 学校給食地産地消率（市内産野菜・きのこ類の重量比率）H27（基準値）10.5%⇒R1（目標値）20.0%から35.0%に変更 R3（実績値）32.88%				
		【課題】例年は、献立に対する保護者の声を聴く場としての給食試食会を、幼稚園、小・中学校で年間10回程度実施していたが、R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。				
	達成度	B	必要性	A	有効性	A

点検評価支援員の意見	地産地消の取組は、児童生徒に故郷を意識づけることもあり、継続していただきたい。また、美味しい宇陀市の給食を持続、継続していただきたい。学校や幼稚園での試食会は、人数を絞った開催を望む。
	宇陀市の子どもたちのために「安全で安心なおいしい給食」を提供し続けていただいていることに感謝している。他地域から転入して来た児童生徒、教職員から「宇陀市の給食はとてもおいしい」とよく聞く。これは、宇陀市の魅力の一つであり、宇陀市のPRにもなっている。コロナ禍で給食試食会を実施できなかったことは残念であるが、コロナ終息後には、保護者にとって意義のある試食会を計画し、更に宇陀市の給食への意識を高めていただきたい。

今後の取組	使用食材、施設等の安全衛生管理を徹底し、学校給食地産地消促進事業を有効活用した地産地消の推進を進め、「安全で安心なおいしい給食」の提供を継続する。			
	アレルギー対応について、「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」を軸として、園・学校及び保護者へ正確な情報提供を行うとともに、個人情報や安全管理に努める。			
	給食試食会などについては、今後のコロナ禍の状況に合わせた方策を園・学校と連携し考えていく。			
		方	針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	14
事業の情報	事業名	新学校給食センター建設事業		担当課	学校給食センター
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	②家庭の豊かな教育力を育もう		
		Ⅲ基本方針	⑩自他の命を大切にする 思いやりの心をもった子どもの育成		
	事業の目的・内容	【目的】子どもたちに「安全で安心なおいしい給食」を提供するために、衛生管理の整った施設の確保を目的としている。 【内容】既存の学校給食センターは、昭和50年築（46年経過）となって、老朽化が進んでいる。そのため、新しい学校給食センターを建設する。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】令和3年度において、設計業者の決定後の令和3年10月29日、新学校給食センター建設概要・建設スケジュールを中心に、地元説明会（第3回目）を行った。また、11月19日には第1回の宇陀市立学校給食センター更新懇話会を開催し、現在の施設の状況及び問題点を説明、新学校給食センターの整備コンセプトを案件とし、承認を頂いた。令和4年3月の宇陀市議会福祉文教常任委員会協議会にて建設に向けての進捗状況報告を行った。					
		【課題】令和3年度予算にて設計業務委託、測量業務委託、地質調査委託等を実施したが、申請業務の追加執行等の発生により設計業務委託が工期延長となった。設計業務が竣工次第引き続き、建設工事入札及び議会承認、工事着工までスムーズに進捗できるよう、事業を進める必要がある。また、施設整備後の学校給食センター運営についてを案件とした、第2回宇陀市立学校給食センター更新懇話会を開催する。					
		達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	現在の施設は、築46年を経過し老朽化が目立っている。子どもたちや安心安全の給食を提供するためにも一刻も早く最新の設備を整えた施設の完成が必要である。その上、衛生管理を徹底して子どもたちの育成に寄与していただきたい。
	新学校給食センター建設に向けて、関係各位が日々努力を続けてくれていることは理解しているが、平成30年6月に最初の予算化が行われた事業にも関わらず、令和4年の7月時点でいまだ工事着工に至っていないのは、色々な事情があるにせよ、時間がかかり過ぎている。子どもたちのために衛生管理の整った施設の確保を目的にしているのだから、これ以上の工期延長は望ましくない。

今後の取組	新学校給食センター建設までは、現在の学校給食センターで「安全で安心なおいしい給食」を持続的に提供できるように、職員全員で徹底した衛生管理の下、施設運営を行っていく。 本年度は設計業務が竣工次第、建設工事入札及び議会承認、工事着工まで行い、令和6年度の稼働と運営に向けて遅延の無いよう事業を進めていく。
	方 針 1

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

事業番号	15
担当課	教育総務課

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】専門の相談員による助言を得ることができるため利用者からの評価が高く、継続して相談を受けるケースが多い。また、就学前の早期の対応により、適切な就学に結びつけることができる。				
		【課題】問題を抱える子どもたちが年々増えてきており、それに伴い相談希望者も増加の一途をたどっている。相談だけではなく発達検査を行っているため相談員の負担は年々増している。令和3年度より相談員を1名増やしたが、引き続き時間増や人員増の対応が必要である。				
		達成度	A	必要性	A	有効性

点 検 評 価 支 援 員 の 意 見	保護者が理解するためには、相談員の専門性が必要である。保護者への周知の拡大も相談数が増えるが、将来の児童生徒に効果があると考えられる。 相談希望者が増加しているのは、問題を抱える子どもたちへの理解が進んできて、相談することへの抵抗感が薄れてきたからだと思われる。このことは決して悪いことではない。相談者が増えれば、相談員の負担が増すのは自明のことである。令和3年度、1名とはいえ、人員増が図られたことは評価するが、いまだ充分とは言えない。更に増員できるよう尽力していただきたい。
--	---

今後の取組	引き続き臨床心理士による相談業務を充実し、そのためには人員増や相談日を増やすことを検討していく。	
	方針	1

23

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	16
事業の情報	事業名	働く子育て世代の図書館利用の充実事業		担当課	中央図書館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	②家庭の豊かな教育力を育もう		
		Ⅲ基本方針	⑫就学前教育の充実と親の子育てや学びを支える環境づくり		
	事業の目的・内容	【目的】働く子育て世代と子ども達の図書館利用の充実を図る。 【内容】中央図書館大宇陀図書館において試行的に祝日開館を4日実施する。また、図書館フェスティバルにおいては、絵本作家による「絵本ライブ」を実施し映画会などの開催により親子が共に過ごせるレクリエーションの場を創出する。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】祝日開館は平日の利用者数より1割程度多かった。図書館フェスティバルは、開催時期がコロナウィルス感染拡大時期と重なったため、開催できなかったが、館内でのお話会や各園所等でのお話会は、コロナ対策を行いながら実施することができた。 【課題】コロナ対策を行いながらできる事業を実施し、祝日開館については利用者アンケートの結果からニーズがあるため、周知不足の反省点を踏まえて、再度次年度は日数を増やして中央図書館のみ試行的に実施する。					
		達成度	C	必要性	A	有効性	B

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	働く子育て世代は、日常が大変忙しく、時間に余裕がないのが現状である。そのため、市民のニーズを把握し、少しでも利用しやすいように柔軟に開館日や時間を定め、家庭や地域の教育力の向上に貢献していただきたい。
	祝日開催やお話会など、コロナ禍の中でも、できることを見つけ、実施できている。働く子育て世代にとって、本事業は必要性の高いものであり、今後も自信をもって取り組んでいただきたいと思います。

今後の取組	今後の感染拡大状況を鑑みながら実施できる事業を検討し、親子の図書館利用のきっかけづくりを支援し、読書に親しむための機会を提供していく。	
	祝日開館については、市民のニーズはあるものの昨年度の結果では、平日の利用より少ない日もあるため、今後の利用状況を勘案しながら実施について検討していく。	
	方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度(令和3年度施策・実施事業分) 点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	17	
事業の情報	事業名	子どもフェスタ事業			担当課	生涯学習課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	③地域全体で子どもを見守ろう			
		Ⅲ基本方針	④主体的に地域に参画する子どもの育成			
	事業の目的・内容	【目的】遊び体験を通じて、仲間づくりや参加者の交流を深めるとともに、豊かな感性を育み未来を担う宇陀市の子どもたちの健全育成を図る。 【内容】宇陀市総合体育館内及び体育館前敷地を使い、昔ながらの遊び（紙ひこうき、ぞうきんかけ競争、空き缶積み、水てっぽう、しゃぼん玉、紙芝居等）を催し、仲間づくり及び参加者の交流を図る。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、実行委員会で協議した結果、2021年(令和3年)の開催は中止と決定した。 2009年(平成21年)から2019年(令和元年)まで10回開催した〔2016年(平成28年)雨天中止〕。2020年(令和2年)も新型コロナウイルス感染拡大のため、中止した。					
		【課題】新型コロナウイルスと共存していく方針を踏まえ、不特定多数の参加者の安全・安心な開催に向けての内容及び体制を協議する必要がある。					
	達成度	—	必要性	A	有効性	A	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「—」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	子どもフェスタは、市内の子どもたちが参加できる宇陀市挙げての事業である。内容については、マンネリにならないように毎年一つでも新しい催しものを提供していただければ良いのではないかな。また、幼稚園や子ども園の先生の意見も取り入れて更に発展させていただきたい。
	子どもフェスタは、子どもたちのために、多くの市民や高校生が力を合わせて作り上げてきた宇陀市の一大イベントであるが、令和2年、3年はコロナ禍のため中止となった。課題として挙げられているように、安全・安心な開催に向けての内容及び体制についての協議を深め、実施を目指して尽力していただきたい。日頃安全に配慮しながら保育や教育に携わっておられる教職員の意見も参考になるのではないかな。

今後の取組	実行委員会の委員には、各種団体・幼保園の代表者も加わっており、より良いイベントになるよう意見を取り入れ、感染状況を注視しながら、開催に向けて実行委員会で協議いただく。 イベント内容も感染防止対策が取れ、安全に子どもたちが楽しめるよう変更していく。		
	方針	3	

※方針は次の1~5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	18	
事業の情報	事業名	青少年健全育成活動			担当課	生涯学習課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	③地域全体で子どもを見守ろう			
		Ⅲ基本方針	⑮地域のネットワークを活用した見守り体制の強化			
	事業の目的・内容	【目的】宇陀市青少年健全育成協議会及び宇陀市青少年指導員連絡協議会を設置し、青少年の健全な育成のための活動を行う。 【内容】啓発標語募集（市内中学生・高校生）、啓発物品（ポケットティッシュ）作成、街頭啓発活動、県との合同立入調査・巡回啓発指導活動、関係研修会参加等である。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】11月1日に中高生が考えた標語作品を掲載したポケットティッシュを市内5カ所にて配布し、健全育成の啓発活動を実施した。 県及び警察と合同で市内コンビニエンスストア等を巡回し、有害図書の販売指導、青少年の非行・被害防止の協力をお願いした。				
		【課題】一人1台のスマートフォンの普及により、SNS等によるいじめ問題、犯罪に巻き込まれる等が起こっている。正しく使えば便利なものなので、「正しく安全に利用する方法」の啓発活動をする必要がある。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	青少年健全育成事業も従来より街頭啓発等多くの方の協力で成り立っているが、今では一人1台スマートフォンを持っている。これを正しく安全に活用されることにより、新しい展開が生まれることを期待する。 課題にあるスマホ等を「正しく安全に利用する方法」の啓発については、法務局とNTTが協働して、「スマホ・携帯教室」を実施している。ただし、学校からの申請を受け、学校の教育活動の中で実施されるので、学校との連携が必要となる。青少年健全育成協議会の活動は重要であり、コロナにより、青少健の活動が制限されないようにしてほしい。
------------	---

今後の取組	現在、県教育委員会によって、各学校にSNS関連チラシが配布され、ネットトラブル防止の周知を行っている。市青少年健全育成事業としても、「スマートフォンの正しく安全に利用する方法」の啓発活動を検討する。 各学校に「スマホ・携帯教室」を無料で開催している団体等の情報を提供し、活用してもらうよう促す。		
		方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	19	
事業の情報	事業名	子ども活動支援事業			担当課	生涯学習課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	③地域全体で子どもを見守ろう			
		Ⅲ基本方針	⑰保護者や地域と共にある学校づくりの推進			
	事業の目的・内容	【目的】地域社会力を活かし、地域ぐるみで学校をサポートするボランティア活動を支援する。（学校・地域パートナーシップ事業） 【内容】子どもたちが安全で安心な学校生活が送れるよう環境を整える。（学習補助、体験学習、登下校の見守り等）				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】小学校6校、中学校4校の宇陀市内全校において、それぞれの学校の特色、地域の実情を活かした取り組みを実施した。 ○地域学校協働活動事業：登下校安全指導、学校内環境整備（美化活動） ○放課後子ども教室：平和学習、文化体験、工作教室等 ○学習補助（地域未来塾）：ボランティアによる学習支援（放課後、夏休み） 【課題】 各学校にコーディネーター（リーダー的協力者）の配置が必要である。				
		達成度	A	必要性	A	有効性

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	宇陀市では、子どもの数が年々減少しているが、継続して取り組んでいかなければならない事業である。ボランティアの配置に苦慮されているようだが、PTAやまちづくり協議会とも連携して、地域の実情にあった教室を運営していただきたい。
	子どもが幼稚園に通っていたとき、PTA会長を務めたことがある。園児数が多かった頃で、1学年に200名近い園児が在籍していた。しかし、園児数の割に園庭の遊具が少なく、子どもたちは楽しく遊ぶことができず、遊びを通して指導する先生方も苦慮されていた。そこで、PTAの役員が会員に呼びかけ、子どもたちのために、材料の寄付をつのり、労力を提供してもらい手作りのアスレチック遊具を造った。課題として挙げられている「リーダー的協力者」の候補としては、PTAが考えられる。

今後の取組	各学校の特色を活かし地域の協力のもと、子どもたちの安全・健全育成に努める。		
	「地域と共にある学校づくり」を進めるにあたり、今後、リーダー的協力者（コーディネーター）は必要であり、学校側と連携・協力して事業の調整を行える人材として、PTA役員の方も対象に人材確保に努める。		
		方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	20
事業の情報	事業名	通級指導教室運営事業		担当課	教育総務課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	⑨一人一人の違いを尊重するインクルーシブ教育の推進		
	事業の目的・内容	【目的】小中学校の通常学級に在籍しているが、言語障害や学習障害、ADHD等により学習面や生活面で困難のある児童生徒が、自立した学校生活や社会生活を送れるようすることを目的とする。 【内容】担任以外の専門指導教員が個に応じた指導を行う。また、保護者、教職員、児童生徒に対しても相談業務を行う。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】現在、榛原小学校で「ほほえみ教室」、榛原中学校で「ひだまり教室」を開室しており、令和3年度は小学生55名、中学生29名が通室した。令和元年度からは小学校、中学校入学時点から通級による指導を受けることができるように入学前手続きの運用も始めており、幼小中の接続を強化した。				
		【課題】在籍校以外でも通級指導を受けられるように、令和3年度から指導員による巡回指導を全ての学校で始めた。また、通級による指導を受ける児童生徒の増加に伴い、スタッフの増員や後継者の育成が今後の課題となる。				
	達成度	B	必要性	A	有効性	B

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	通級による指導は、専門スタッフにより学習障害や生活面で自立できるように指導する事業で、指導者の力量や人数が大きく児童生徒の将来を左右する。通級指導を受けることにより、保護者の考えを変えることもある。この事業を必要とする人数が増えていることに対して、スタッフが不足することがないように予算措置が必要であると考えられる。 通室する子が、令和2年度の56名から、令和3年度には84名に増えている。従来から、スタッフの増員や後継者の育成が課題とされてきたが、喫緊の課題となってきた。予算措置も含め、必要な対処を具体的に進めていただきたい。スタッフ不足によって自立支援に支障をきたすようなことが起こると、保護者の信頼を失うことになるかもしれない、それは、支援を必要とする子どものためによくない。
------------	--

今後の取組	通級指導教室指導者の人材育成について、令和4年度は、小学校が3名体制となったため担当者の育成を図っている。通級担当者はもとより市全体で特別支援教育の質の向上を図ることで、人材育成も兼ねることができる。 小学校において通級指導教室を2校体制にしていくための令和5年度予算要求を実施し、小学校における通級指導教室の充実を図る。	
	<table> <tr> <td>方針</td><td>1</td></tr> </table>	方針
方針	1	

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

		事業番号	21
事業の情報	事業名	市美術展事業	担当課
	生涯学習課		
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう
		Ⅲ基本方針	⑳市民や地域社会のニーズに応じた学習機会の充実
事業の目的・内容		【目的】美術を愛する市民の創作活動の成果を発表できる場所を提供し、入賞を目標としてもらい、創作意欲の向上につなげる。 【内容】4部門（絵画の部、書芸の部、写真の部、彫塑工芸の部）にて募集した。	

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】令和3年度は、新型コロナウイルス感染防止を徹底し、11月5日から11月8日の4日間、市文化会館で開催し、応募作品数102点、672人の観覧があった。 応募作品とは別に、文化会館・公民館活動作品、園児の作品、中学校書道部の作品、図書コンクールの作品を展示し、にぎわいに貢献した。 足を運べなかった方のために、自主放送に撮影に来てもらい、うだチャンネル11「ホットニュース」で放送してもらった。 【課題】来場者が観覧しやすいよう、また、作品数により、展示のレイアウトの調整をする必要がある。					
		達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	市民の文化の向上に重要な事業である。全体にレベルアップが望まれるが、会場に足を運べなかった方が、自主放送等で視聴できたことは良い取組である。この時期に、市民に芸術への関心をもってもらうことにより、市全体の文化レベルの向上に寄与するものと思われる。 会場に行けなかった人のための、自主放送うだチャン「ホットニュース」での放送は、とても良い試みだと思うので、今後も継続していただきたい。また、他の部局や施設と連携しての作品展示についても、よい取組として評価したい。
------------	--

今後の取組	市民の文化芸術活動発展のため、今後も作品発表の場を提供し、生きがいづくりを支援する。 今後も会場に来られなかった方のために自主放送うだチャン「ホットニュース」で放映してもらえよう自主放送スタジオに協力を得る。	
	方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

事業番号	22
担当課	中央公民館

事業の情報	事業名	公民館管理運営事業		担当課	中央公民館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	⑳市民や地域社会のニーズに応じた学習機会の充実		
	事業の目的・内容	【目的】宇陀市民一人一人が、心豊かに健康で生きがいのある人生を過ごすために、生涯にわたって主体的に学習を継続することが求められていることを踏まえ、生きる喜びを分かち合える生涯学習社会の構築を目指す。また、地域課題や市民の学習ニーズに即した学習機会の提供を図るとともに、地域に根ざした公民館活動を推進する。 【内容】身近な学習や文化活動が、誰でも気軽に活動できるような環境整備に努める。また、文化的活動の機会や地域住民と公民館活動をつなぐ情報提供に努めるとともに、各種団体と協力・連携し地域の教育・文化の振興を図る拠点とする。それから、自主グループの育成を推進し、各分館の施設利用率の増加を図る。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】公民館の施設利用のほとんどは自主グループ及び定期利用団体であり、利用率は概ね順調である。自主グループの活動を支援するため第1回公民館まつりを実施した。公民館まつりを通して、各グループの活動内容を広く市民にPRすることにより、市民の文化意識の高揚を図った。また、公民館を拠点として活動している自主グループの日頃の成果発表及びグループ同士の交流の機会を設けたことで、各グループの活性化を図れた。				
		【課題】市民が「つどう・まなぶ・つながる」機会と場の提供のため、公民館の必要性は高く、さらなる施設の環境整備に努める。第2回公民館まつりの参加自主グループや来場者数を増やすため、事前周知を早めに行い、自主グループと連携をとりながら実施する。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	いつでもどこでも誰でも学べるのが公民館事業と考えられる。人間は、ほかの人と出会うことで視野が広がったり、生きがいを見いだせることもあるので、工夫を凝らし継続していただきたい。公民館まつりは、今後の発展が期待される素晴らしい試みであり、継続が期待される。 コロナ禍のため、人と人が「集ったり、繋がったり」する機会や場が大きく損なわれてしまった今こそ、本事業の伸展が望まれる。新しい取組として第1回公民館まつりを実施したことは大きな成果である。ただ、昨年の評価シートの「今後の取組」の欄に、「市民教養講座をうだチャン講座として放送していきたい」とあったが、実行されなかったことは残念である。放送時間枠との関わりなど、障壁もあったのだろうが、アイデアと工夫で乗り越えて欲しかった。でなければ、点検評価が活かされたということにはならない。
------------	---

今後の取組	今年度も第2回公民館まつりを開催予定である。第1回目は広く周知するため有名人による特別講演を企画したが、第2回は公民館活動自主グループによる活動発表や作品展示を重点に開催予定である。コロナの感染状況が心配だが、感染対策を実施してできるかぎり開催したいと考えている。 うだチャン講座については、令和3年度で実施できなかったことを反省し、令和4年度で市民教養講座をうだチャン講座で放送できるよう自主放送と打合せを進めている。宇陀市民一人一人が、心豊かに、健康で生きがいのある人生を過ごすために、公民館に行きたくても行けない市民のために、うだチャン講座を実施したいと考えている。		
		方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

事業番号	23
担当課	中央公民館

事業の情報	事業名	各種講座・教室事業		担当課	中央公民館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	⑳市民や地域社会のニーズに応じた学習機会の充実		
	事業の目的・内容	【目的】社会教育法に基づき、市民のために実生活に即した教育・学術・文化に関する各種の事業を行い、市民の教養向上、健康の増進を図り生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 【内容】市民のニーズに合った講座の充実を図り、自主グループ・リーダーの養成とまちづくり・まちおこしなど地域社会参加の促進を図る。「定期講座」は各分館にて開催し、1年を通じて初歩から応用までを学習する。「市民教養講座」、「入門講座」、「生涯学習講座」については各分館を会場とし、各テーマを設けて、知識の向上、趣味の輪の拡大、健康の保持や生きがいづくりを目指した講座を開設する。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】講座参加延べ人数 令和2年度1,206人、令和3年度70人増加の1,276人。				
		【課題】各講座・教室では応募者が定員以上になり抽選を行うものもあるが、反面、応募者が少なくやむなく中止したものもあった。応募人数が少ない講座については、内容の見直しや、開催時期の変更等をするなどの工夫を行い、必要課題と要求課題のバランスを取ることが必要である。近隣市の講座の動向や市民の求める講座の把握に努める。また、周知についても広報誌や宇陀市自主放送以外にも宇陀市公式SNS等の活用など、市民への周知の方法を検討し、より多くの参加者を得よう努める。今後さらに幅広い年代の受講生を対象とするため、時代に合った講座や開催時期、PR方法の検討が必要である。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	市民のニーズや時代に適応する講座は、広く周知し教養を高めていただきたい。不人気講座に関しては、他の講座との併設や実習形式また現地学習などの工夫を加えて取り組んでいただきたい。 昨年の評価シートに「講座内容を充実させるために、他の部局、施設と連携を密にし、問題を共有しながら、内容を考える」とある。人権講座における人推協との連携など、一部進展が見られたものの、いまだ充分とは言えない。各講座の内容と関わりのある部局、施設との協議を深めていただきたい。きっと互いのメリットが見つかるはずである。
------------	---

今後の取組	参加人数が少なくても、市民にとって必要な講座は継続していかなければならない。今後も講座の内容とかかわりのある部局、施設との協議を深め、充実した講座を開催したいと考えている。	
	方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度(令和3年度施策・実施事業分) 点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	24	
事業の情報	事業名	社会教育推進講座事業			担当課	中央公民館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	⑳市民や地域社会のニーズに応じた学習機会の充実			
	事業の目的・内容	【目的】社会教育の推進及び公民館と地域のつながりを深めるため、市内各地域のまちづくり協議会が事業実施し、地域の課題に取り組むとともに地域の活性化につなげる。 【内容】地域の課題を解決するために開催する講座や、研修会等に講師の紹介あるいは講師を派遣し、予算の範囲内において講師派遣の費用を支援する。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】令和2年度実績 2団体2事業 延べ人数47名参加。 令和3年度実績 1団体2事業 延べ人数30名参加。				
		【課題】令和3年度も2年度同様新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどのまちづくり協議会が事業実施を見合わせる事となった。令和3年度は1団体のみの申請で終わってしまった。コロナ禍でも事業実施したまちづくり協議会の事業の紹介をするなど日頃より積極的にまちづくり協議会とかかわっていき申請件数を増やす。				
		達成度	B	必要性	A	有効性

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	まちづくり協議会との連携は、今後の講座の発展に必要である。また、まちづくり協議会同士の橋渡しもできると、更に充実したものになると期待される。
	国の方針として、イベントの縮小や中止が求められていた状況で、申請が皆無であったことは致し方なかったと思う。しかし、現在は国の方針も変わってきているので、徐々に以前の状況に戻っていくのではないだろうか。変異型の感染拡大に留意しながら、本事業の課題克服を図っていただきたい。

今後の取組	社会教育推進講座は地域の課題とつながる取組を行える事業と考えている。コロナ禍でも、感染拡大に留意しながら、活動が再開されたら支援できるよう予算を確保しておきたいと考えている。	
	方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	25	
事業の情報	事業名	宇陀シティマラソン事業			担当課	生涯学習課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②①生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進			
	事業の目的・内容	【目的】宇陀市の豊かな自然の中で、心身の健康維持を目的とし、「走ろう宇陀！ふれあう心」をスローガンに宇陀シティマラソンを開催し、宇陀市のPRにつなげる。 【内容】市役所周辺を会場にファミリー（1キロ）、2キロ、3キロ、10キロの4コースを設定し、市内外から参加者を募って開催。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】実行委員会で協議した結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、令和3年度（令和4年3月）は、開催を中止した。（令和元年度、令和2年度も中止）					
		【課題】新型コロナウイルスと共存していく方針を踏まえ、参加者、不特定多数の観覧者の安全・安心な開催に向けての内容及び体制を協議する必要がある。					
		達成度	—	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「—」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	多くの市民ランナーが集う宇陀市挙げての事業である。市外から参加されるランナーに宇陀市を知っていただく良い機会であるため、ほかの課とも連携し宇陀市の良さを広めていただきたい。また、ランナーのニーズにも耳を傾け、より安全な大会運営を望むものである。
	宇陀シティマラソンも多くの市民がボランティアとして参加し、協力し合って作り上げる宇陀市の一大イベントであるので、コロナ感染拡大に留意しながらも、開催に向けて尽力していただきたいと思う。奈良県下の自治体の中には、令和3年度に「〇〇マラソン」を実施した所もあると聞く。どのような安全対策が効果的なのか参考にし、参加者、観覧者へも啓発していただきたい。

今後の取組	新型コロナウイルス感染状況を注視しながら、安全に宇陀シティマラソンが開催できるよう、実行委員会で協議する。 マラソン大会を実施した市外の市町村に感染対策等の情報を得て参考にし、実施に向けて取り組む。
	方針 2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	26	
事業の情報	事業名	市民スポーツ大会事業			担当課	生涯学習課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②①生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進			
	事業の目的・内容	【目的】広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心の健康・体力の増進・競技力の向上を目指し、生涯を通じたスポーツ活動の振興を図る。 【内容】市スポーツ協会が中心となり、21種目ある競技ごとにスポーツ大会を開催する。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】感染状況及び大会の開催場所、参加人数等を判断材料とし、新型コロナウイルス感染の防止対策を徹底し、17種目のスポーツ大会を開催した。（4種目は中止）				
		【課題】新型コロナウイルスと共存していく方針を踏まえ、全種目開催に向けて取り組む必要がある。 多種多様なスポーツがある中、市民に競技に対して興味を持ってもらえる周知方法を検討する必要がある。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	市民にスポーツを通して、健康増進、体力や技術の向上を目指す必要な事業と考える。市スポーツ協会を中心に進められているが、担当課としては、広報の方法等指導力を発揮していただきたい。
	様々な制限がある中、令和2年度より開催できた大会が大幅に増えた。担当課の努力の賜と思う。今後も、生涯を通じたスポーツ活動を通して、市民の健康と体力の増進を図る取組を継続していただきたい。課題として挙げられている「周知方法」については、始めにPDCAサイクルを明確して検討を進めていただきたい。

今後の取組	各スポーツ協会に新型コロナウイルス感染症対策等の情報を提供するとともに、各スポーツ協会の感染症防止ガイドラインに沿って、安全に大会が開催できるよう、市民の健康増進に努める。		
	各スポーツ協会と協力し、市民が競技に興味をもてるよう周知方法を検討する。		
		方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	27
事業の情報	事業名	近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部		担当課	生涯学習課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進		
	事業の目的・内容	【目的】宇陀市の豊かな自然の中で、起伏のあるロードレースに適した道路を用い、近畿各府県から高等学校自転車競技選手を招き、宇陀市のPRにつなげる。 【内容】近隣住民他、各関係機関の協力を得て、宇陀市農林会館をスタート、ゴールとする周回コース（1周6.7km 男子：12周 女子：1周）によりロードレースを開催する。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】関係機関の協力のもと、新型コロナウイルス感染防止のため、無観客・会場規模縮小により、感染者を出すことなく、無事に開催できた。				
		【課題】交通規制の予告看板を警察の許可を得て設置しているが、看板の大きさも規定があり、市民等に協力・理解の得られる周知（情報発信）をする必要がある。 今後も新型コロナウイルスと共存していく方針を踏まえ、選手・関係者、不特定多数の観覧者の安全・安心な開催に向けて協議する必要がある。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	最近、定着した事業であるが、公道を使用するため交通規制等市民の協力あつての事業であり、関係機関と綿密に協力し、安全に事業遂行できるように万全の対策をしていただきたい。また、広報活動を通して市民に自転車に親しんでもらう良い機会である。 この大会は、もはや慣例行事となつてきている。年齢、性別を問わずサイクリングをする人の姿をよく見かけようなり、その数も確実に増えてきている。当初の目的、「宇陀市のPRにつなげる」は、達成されつつある。競技大会ではないが、稀に2列走行をする人がいて、事故が心配である。マナー向上のための取組も必要になつてきている。
------------	--

今後の取組	市民の理解・協力を得ながら、今後も開催に向けて取り組む。指摘等があった場合、改善し、安全対策を徹底する。		
	練習のため、走行に来ている選手等には事故のないよう、マナーの周知を強化する。		
		方針	2

※方針は次の1~5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	28
事業の情報	事業名	総合体育館・総合運動場運営事業		担当課	総合体育館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進		
	事業の目的・内容	【目的】体育施設の整備充実と健全な管理運営に努め、利用促進を図る。 【内容】市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、体育館・運動場の効率的な管理運営を行い、安全で快適な利用ができるように努める。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】											
		令和元年度		令和2年度		令和3年度		増減率					
		体育館利用者数		46,868人		29,172人		30,657人		105.1%			
		運動場利用者数		8,668人		5,326人		7,883人		148.0%			
		ワクチン接種会場となり、アリーナ・トレーニング室80日間、格技室・小体育館133日間の利用制限となった。また、市内利用者限定や県内利用者限定等のコロナ禍における利用制限があったが、前年度と比較して利用者増加となり、特に市外利用者の増加が大きかった。他市施設での利用制限があり、当市での需要が高まったためと考えられる。											
		体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めた。											
		【課題】施設の長寿命化のために、個別施設計画に基づき大規模改修が必要となる。											
		達成度		B		必要性		A		有効性		A	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	コロナ禍で、ワクチン接種会場として、大きな役割を果たしている。市外からの利用者の需要も多く、今後も宇陀市にとって多くの人を呼び込める不可欠な施設である。長寿命化のために、計画的な改修が必要である。
	コロナ対策を工夫しながらの管理運営に尽力されていることに感謝申し上げたい。利用が限られてしまったこともコロナ感染拡大の状況下にあっては致し方ないと思う。

今後の取組	今後もコロナ感染対策を徹底し、市内外の利用者が安心して利用できるように努め、スポーツの振興を図る。 計画的な改修を進めて施設の長寿命化を図る。	
	<table border="1"> <tr> <td>方針</td><td>2</td></tr> </table>	方針
方針	2	

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	29
事業の情報	事業名	室内温水プール及びテニスコート管理運営事業		担当課	総合体育館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進		
	事業の目的・内容	【目的】水泳やテニスを通してスポーツ振興と健康増進を図り、効率的な管理運営と利用者の増加を進める。 【内容】市民のスポーツとレクリエーションの振興を図り、健康増進を推進し、室内温水プール及びテニスコートの効率的な管理運営を行い、安全で快適な利用ができるように努める。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率		
		プール利用者数	39,627人	22,531人	26,353人	117.0%	
		テニス利用者数	4,251人	4,149人	4,681人	113.0%	
市内利用者限定や県内利用者限定等のコロナ禍における利用制限があったが、前年度と比較して利用者増加となっており、特に市外利用者の増加が大きかった。他市施設での利用制限があり、当市での需要が高まったためと考えられる。							
施設整備と効率的な管理により、安全で快適な利用ができるよう努めた。							
【課題】施設の長寿命化のために、個別施設計画に基づき大規模改修が必要となる。							
		達成度	B	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	室内温水プールは、宇陀市が誇る施設である。子どもから大人まで、水泳を通して健康増進に大きく寄与している。今後も市民が安全で快適に利用できるように、計画的に機械や設備の更新が必要である。
	「大規模改修」について、数年前から課題として挙げられているが、施設・設備の老朽化は、日々進んでいき、危険な事故の可能性も高まっていくので、できるだけ早期の改修が望まれる。

今後の取組	今後もコロナ感染対策を徹底するとともに、機械や設備の維持管理や適切な環境整備を行い、安全・安心に利用できるように努め、スポーツの振興を図る。			
	老朽化が進んでいる施設・設備について、計画的な改修を進める。			
		方	針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

事業番号	30
担当課	総合体育館

事業の情報	事業名	小学校水泳教室事業	
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう
		Ⅲ基本方針	②生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進
事業の目的・内容		【目的】水泳技能を学び、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりの推進を図る。 【内容】市内の小学校2、3年生を対象に、水泳を通してスポーツの楽しさを知り、生涯にわたりスポーツに親しむことを目的として、夏休み2日間にわたり水泳専門講師によって授業を行う。	

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率		
		水泳教室生徒数	124人	0人	0人	0%	
		【課題】新型コロナウイルスの影響により開催していないが、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりの推進を図るために必要な事業である。このことから、コロナ禍での開催に向けた感染対策が必要となる。					
		達成度	-	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	水になじんで水泳の楽しさを会得するため小学生向けの事業である。学校での水泳授業もコロナにより実施できていない。保護者向けに安全性や衛生面を謳った周知をし、多くの児童の参加を望むものである。 令和2年、3年と2年連続で中止されている。コロナ対策のためなので中止はやむを得ないが、この2年間に、2年生、3年生を過ごした子どもたちがあまりにも気の毒である。救済措置（希望者は令和4年に限り4年生も参加できる等）を講ずるための工夫を求めたい。
------------	---

今後の取組	水に親しみ水泳の楽しさを知り、健康づくりの推進を図るための重要な事業である。学校での水泳授業は実施されていないが、教室数を多くし、一教室あたりの人数を少なくするなどの感染対策を図りながら実施できるように進めていく。

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	31
事業の情報	事業名	水泳教室事業		担当課	総合体育館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進		
	事業の目的・内容	【目的】ジュニアにおいては、水泳の基礎技能を学び、スポーツの基礎体力を付ける。また、成人は水に親しみ、水泳の楽しさを知り、健康増進を図る。 【内容】水泳教室を専門業者に業務委託し、一年を通して専門講師から、能力に合わせた技能を習得する。 水泳教室（幼児コース、児童・生徒コース、選手コース、成人コース）			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率		
		水泳教室生徒数	391人	344人	318人	92.4%	
		ジュニアオリンピック出場者や全国高校記録保持者を輩出し、水泳選手を育てる役割を果たしている。また、成人においては、水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらい、健康づくりに貢献した。					
		【課題】コロナ禍での開催に向けた感染対策が必要となる。					
		達成度	B	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	水泳は、全身運動により体力の増進には最も適した運動の一つである。ニーズに応えるコースを種々設定されている。衛生面には、特に注意を図り安全な教室の運営を希望する。
	事業番号30「小学校水泳教室」との関連で、本「水泳教室事業」はなぜ中止されていないのか問うたところ、「イトマンスイミングスクールは中止していない、水中ではコロナ感染していない」との回答があった。「コロナ禍での開催に向けた感染対策が必要」という課題との整合性に疑問が残る。

今後の取組	能力に合わせて基礎技能や基礎体力を付け、体力の増進を行うための適した運動である。コロナ感染対策や衛生面の徹底を図り、今後も引き続き推進する。 プール内でのコロナ感染の事例はないと認識しているが、各自自宅での検温や健康のチェックリストの提出を受けて健康状態を確認している。そして、更衣室内のロッカーや椅子、ロビーの券売機や椅子、自動販売機のボタン等を定期的に消毒を行い感染防止対策を実施している。また、プール内での会話は感染リスクを高めるため、こまめに注意喚起を行い、更衣室では密になりやすいので分散して入室させ、マスクの着用もないため、会話をしないように指導し、感染対策を図っていく。
	方 針 2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度(令和3年度施策・実施事業分) 点検評価シート

事業番号	32
担当課	総合体育館

事業の情報	事業名	宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業		担当課	総合体育館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②⑩生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進		
	事業の目的・内容	【目標】駅伝の楽しさを知り、学校の枠を越えて子どもたちの仲間意識や人を思いやる心を育てる。 【内容】長距離走を通して子どもたちの体力向上と健全育成を図るとともに、スポーツ全般に必要な基礎体力や連帯感を養い、豊かな人間性をつくる。 「宇陀市駅伝チャレンジ大会」において、小学校5、6年生の8名1チームとして市内各小学校より集まりタイムを競う。 各小学校5・6年生に希望者を募り、駅伝練習を3ヵ月間行った後、「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」に参加する。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】「宇陀市駅伝チャレンジ大会」は、新型コロナウイルスの影響により開催していないが、「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」は、男子3人、女子6人の参加者で3月5日の大会に向けて、12月から2月まで毎週末練習を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。				
		【課題】コロナ禍での開催に向けた感染対策が必要となる。				
		達成度	-	必要性	A	有効性

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	奈良県が主催する市町村対抗子ども駅伝大会に参加する予備大会のような事業であるが、あくまでも社会体育の一貫であり、強制的に参加するものではないと考える。走る意欲のある児童には、無理なく安全な指導を望むものである。 小学校の体育では、長距離走ではなく、持久走として指導することになっている。他との競争ではなく、自分に合ったペースで5分間程度走り続けることが目標とされている。駅伝は、小学校の体育指導になじまない。だから、この駅伝大会事業は、社会体育として実施されている。少子化もあり、今後、参加希望者が減少することがあったとしても、学校に過度な協力依頼をするべきではない。
------------	--

今後の取組	駅伝大会は小学校の体育指導になじまないのので、社会体育として実施していく事業であることを前提として、参加希望者を募り、学校の協力に頼ることなく、社会体育の事業として開催に向けて参加募集方法や練習方法、チーム編成方法、記録のとり方等について検討していく。

方	針	3
---	---	---

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	33
事業の情報	事業名	大人のための運動教室事業		担当課	総合体育館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②生きる活力と喜びを与えるスポーツライフの推進		
	事業の目的・内容	【目的】ウェルネスシティ宇陀市構想に基づき、中高年の健康増進、体力維持、疾病予防等を目的とした運動教室を通じて、コミュニケーションを深めながら、心身の健康づくりに寄与する。 【内容】室内温水プール及び総合体育館内の施設を利用した継続型の運動教室の開催をする。筋力体力アップ体操・エアロビクス・ピラティス・ヨガ・膝腰改善ウォーキング。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】	令和元年度	令和2年度	令和3年度	増減率
		筋力体力アップ体操	15人	22人	24人	109.0%
		エアロビクス	24人	14人	19人	136.0%
		ピラティス	25人	19人	29人	153.0%
		ヨガ	57人	57人	63人	111.0%
		膝腰改善ウォーキング	38人	35人	37人	106.0%
		合計	159人	147人	172人	117.0%
		運動を始めたいと思っている人や、運動の必要性がある人が運動実践を体験でき、定期的に開催することで、運動の習慣化に繋げていける。				
		【課題】コロナ禍での開催に向けた感染対策が必要となる。				
		達成度	A	必要性	A	有効性

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	大人のための多彩な運動教室は、60歳以上の方の参加が多く、目標がほぼ一致している。今後も幅広いニーズに応えて、感染対策等を万全にして開催していただきたい。
	コロナ禍ではあったが、全ての教室の参加者が増加している。広報「うだ」でのお知らせや口コミによる教室のイメージアップが増加理由として考えられるとのことである。運動による健康づくりに関心をもつ人が多いということだろう。本事業はとても有意義なものである。

今後の取組	運動教室参加者に聞き取り調査を行ったところ、「体を動かすようになって体が軽くなった」「使っていない筋肉を発見できる」「立ち上がる動作が機敏になった」「体調が良くなった」「日常生活がいきいきしてきた」等、運動による変化が見て取れるように、ウェルネスシティ宇陀市構想に基づいた心身の健康づくりに適した運動教室であるので、コロナ感染対策を徹底し継続して進める。
	方 針 2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	34	
事業の情報	事業名	成人式事業			担当課	生涯学習課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進			
	事業の目的・内容	【目的】新成人が親や周りの大人達に保護されてきた子ども時代を終え、自立し、大人の社会へ仲間入りすることを激励・祝福するために成人式（式典・記念行事）を開催する。 【内容】 10時から10時30分：式典〔開式、国歌斉唱、お祝いの言葉（市長・議長）、来賓紹介、記念品目録贈呈、新成人誓いの言葉〕 10時30分から11時：記念行事（ビデオレター、思い出のスライドショー、映像クイズ）※実行委員会主催 11時から12時：写真撮影				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】令和3年度〔令和4年1月10日（祝）〕成人式開催においては、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するため、令和2年度と同様に総合体育館を会場とし、マスク着用、検温、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保等を行い無事開催ができた。 写真撮影のスムーズな運営により、時間の短縮に取り組むことができた。 対象者269名中、208名（出席率77.3％）の参加があった。				
		【課題】新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、時代にあった開催内容等を実行委員会と共に検討する必要がある。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	成人年齢の引下げがあったが、例年どおり20歳を祝う形式で開催されている。式典は、「成人の日」にこだわらず新成人が参加しやすい日を選んで開催するのは主役重視の良い判断である。また、実行委員会形式で実施することも同じである。市外で生活している新成人も故郷で参加できることは喜ばしいことである。今後もきめ細かな配慮をしていただき、一人でも多くの成人者が参加できるように努力していただきたい。 令和2年度の出席率は、72,6%だったので、コロナ禍の中でも出席率は向上している。目的、内容共に、実行委員を筆頭に、広く新成人に理解されているからだと考える。課題として挙げられている「時代に合った開催内容」は、既にある程度形造られているのではないかな。
------------	---

今後の取組	成人年齢が18歳となったが、令和5年も20歳を対象に「成人の日」の前日に式典を行い、20歳としての自覚、社会人としての規範意識を高めていく大切な機会であるため、今後も心に残る意義のある「二十歳のつどい」として開催する。		
	生涯に1回の式典であるため、新型コロナウイルス感染防止対策を行い、開催に努める。		
	方	針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	35	
事業の情報	事業名	文化財保存修理等補助事業			担当課	文化財課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進			
	事業の目的・内容	【目的】補助金制度を活用して国・県・市指定文化財（以下、「指定文化財」という。）所有者（個人・宗教法人・自治会）の経費の負担を軽減する。また、指定民俗文化財を維持伝承していくため、後継者を育成するための経費等の負担軽減を図る。 【内容】指定文化財の所有者が行う防災設備点検、建造物等の保存修理、防災設備設置・収蔵庫建設・環境整備（草刈、庭木の剪定）等に対して補助金を交付する。また、指定民俗文化財伝承や後継者育成経費等、文化財保護に対して補助金を交付する。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】令和3年度は、保存修理3件、環境整備2件、民俗文化財伝承2件、防火設備点検11件、美術工芸修理1件であった。				
		【課題】補助金制度を活用して、維持管理できるよう知らせていく必要がある。また、指定民俗文化財の伝承のため子どもたちが参加している地域もあるが、やはり後継者不足の確保が課題である。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	郷土の文化財を維持、管理することは、重要である。国、県等の補助金を活用しながら、地域住民の文化財に対する意識向上を図り、地域から文化財を未来につなげようとする取組が必要である。
	補助金制度を活用したくても、自己負担額を確保できないで諦めざるを得ない場合があると聞く。可能ならば一定期間の積立をしていく方法を考えるなど、個に応じた助言や支援があればよいと思う。また、後継者不足は、宇陀市全体の大きな課題の一つである。市全体として、多面的に総合的に取り組まなければならない。

今後の取組	補助金制度を活用し、文化財の修復を図っていく。		
	後継者が不足する民俗伝承についてはアーカイブとして残していけるような対策を図る。		
	方	針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	36
事業の情報	事業名	薬の館管理運営事業		担当課	文化財課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進		
	事業の目的・内容	【目的】市民や来訪者に、伝統的建造物に対する理解を深めてもらい、歴史・文化意識の向上を図る。 【内容】市指定文化財である宇陀市歴史文化館「薬の館」を一般公開する。薬関連の資料をはじめ、薬問屋であった細川家の内部を展示している。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】引き続きコロナ禍により、入館者数は1,779人と令和元年度比△24.3%となった。コロナ禍が終息し、早く元の生活が取り戻せるよう「悪疫退散」を願うことと薬の館のPRするため、館内で展示している「鍾馗像」を用いた入館券（ポストカード）を作成し、新年度より活用していく。また、PayPayを導入し、キャッシュレスにより現金取り扱い事務がスムーズになった。					
		【課題】建物の経年劣化により館内の屋根、鴨居、床等修繕箇所が増えてきている。					
		達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	宇陀市は、全国に誇る薬草発祥の地であり、薬の館は観光客を呼び込む重要な事業である。今後も引き続きPRに様々な工夫を凝らし、また、建物の維持補修には、市を挙げて取り組んでいただきたい。
	鍾馗像の入場券やキャッシュレス決裁など、具体的な工夫が為されていてとてもよいと思う。課題として、経年劣化による修繕箇所の増加が挙げられており、種々の制限があるとしても、経年劣化をくい止めるための取組も検討していきたい。

今後の取組	施設内展示の鍾馗像をポストカードに活用したように今後も施設のPRを図る。		
	施設内で企画展などができるよう、工夫して改善を図る。		
		方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	37
事業の情報	事業名	重要伝統的建造物群保存地区保存事業		担当課	文化財課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進		
	事業の目的・内容	【目的】平成18年に国から選定された宇陀松山地区の重要伝統的建造物群保存地区について、補助事業を行い、歴史的な町なみの景観を維持・向上を図る。 【内容】歴史的な町なみの特性を維持回復するため、地区内の伝統的建造物の修理とそれ以外の建造物の修景に対して補助金の交付を行う。また、防災設備等の整備を行う。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】補助事業により8件（修景3件・修理5件）の改修ができた。また、防災計画の改定のため専門部会による協議を進めるとともに、大阪工業大学による耐震調査を行った。				
		【課題】簡易な耐震診断手法と耐震補強工法の検討する。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	重伝建地域の現状を維持するために修繕、耐震補強等が必要である。また、空家が発生することもあるが、そこに住みたいと考える人も存在することから、全国に広く周知することも必要である。
	自己負担額がネックとなっているようである。自己負担を軽減するための方策がないと、いずれ行き詰まってしまうのではないかと心配である。課題に挙げられている簡易な診断、工法が実現することを願っている。

今後の取組	補助金制度を活用し、歴史的町並みの景観を維持していく。		
	地域の防災計画の改定に向けて耐震調査を進めていく。		
		方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	38	
事業の情報	事業名	埋蔵文化財発掘調査事業			担当課	文化財課
	教育大綱の 位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進			
	事業の 目的・内容	【目的】市内の埋蔵文化財の保存及び記録し、保護対策を講じる。 【内容】市内遺跡の発掘調査、個人の開発に先立つ事前の発掘調査、遺跡保存を目的とした範囲確認調査、発掘調査後の成果整理、市内遺跡の分布調査、出土遺物の保存処理、公共工事に伴う事前発掘調査等を実施する。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】令和2年度まで発掘調査を行った。不動塚古墳の測量業務を実施した。また、宇陀松山城跡から出土した鬼瓦等の三次元計測を行い、スマホやパソコンから立体化された画像をあらゆる角度から見るようになった。				
		【課題】文化財を活用して、宇陀市を訪れてもらうような対策をこれからも協議していく必要がある。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	埋蔵文化財の発掘事業は、継続していくべき事業である。出土品の保存、保存場所の設定に万全を期していただきたい。出土品の展示場に足を運ばない人にとって、スマートフォンやパソコンであらゆる角度から見られるようになったことは素晴らしいことで、興味をもつ人も増加するのではないかと考えられ、是非とも継続していただきたい。 昨年の事業別シートの「今後の取組」の欄に、「遺物の展示を進める」とあったが、展示場所がなく断念したとのことである。代わるものとしてスマホやパソコンから立体化された画像を見られるようにしたとのことである。努力は認めるが、スマホの小さな画面で実物が放つ感動は伝わらないと思う。市内の空いている公共施設を活用するなどして、遺物展示を開催できないのだろうか。
------------	---

今後の取組	遺物等の展示は既存施設の展示スペースを活用して展示を行っていく。 不動塚古墳より出土した鉄剣等の金属を分析調査し、適正な保存処理を行っていく。	
	方針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	39	
事業の情報	事業名	史跡宇陀松山城跡保存整備事業			担当課	文化財課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進			
	事業の目的・内容	【目的】公有地化を行った範囲を中心に城跡を整備していく。また、市の活性化の一助となるよう城跡を整備する。 【内容】まずは災害復旧事業を進めている。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】現在は、災害復旧事業を優先して行っている。				
		【課題】災害復旧事業を国庫補助事業として継続していくため、文化庁からの指導のもと事業をしていかなければならない。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	災害復旧工事は、補助金と絡めて進めていく必要がある。その後の整備については、民有地もあり、地主との交渉もあるため無理をして事業を完了させる必要はない。
	松山城跡保存整備事業は、災害復旧事業が終了しないと、進めることができない。共に国庫からの補助があつての事業なので、文化庁からの指導、助言を真摯に受け止めて事業を進めていきたい。また、事業を滞りなく進めるためには用地買収交渉の進展が欠かせない。

今後の取組	災害復旧事業を優先して進めていく。		
	方	針	2

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	40	
事業の情報	事業名	史跡森野旧薬園保護事業			担当課	文化財課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進			
	事業の目的・内容	【目的】大正15年国史跡に指定された日本最古の私設薬園である。この史跡を良好な状態で維持し、次の世代へ継承していく。 【内容】これまで、史跡内の森野賽郭氏が研究に打ち込んだとされる桃岳庵（トリガクアン）を改修し、令和3年度において、賽郭夫婦を祀っていた賽郭祠堂（サイカクジドウ）の実施設計を行うとともに獣害防止柵を設置した。また、令和4年度において賽郭祠堂の改修を行う。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】獣害防止柵を設置したことにより、薬草を獣害から防ぐことができた。また、雑木を剪定することにより日照等の環境を整備することができた。				
		【課題】薬園の維持及び整備を活用計画に基づき実施していくため、所有者と今後の方針を協議していき、整備委員会に諮る必要がある。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	歴史ある私設薬園であり、宇陀市の文化を後世に伝えていくためにも維持管理、運営を所有者と十分に話し合い進めていただきたい。また、会議の中で話をした薬草の管理人の高齢化について早急に後継者を見つける必要がある。 「日本最古の私設薬園」とのことであるが、榛原の墨坂神社は「日本最古の健康の神」を祀っている。両者を関連させてPRすると、宇陀市の優れた観光資源になるのではないかと思いますので、所有者との協議が円滑に進むことを期待したい。
------------	--

今後の取組	事業を繰越した賽郭祠堂（森野賽郭夫婦を祀っていた）改修を行う。		
	方針	2	

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度(令和3年度施策・実施事業分) 点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	41
事業の情報	事業名	国指定天然記念物等保護再生事業		担当課	文化財課
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう		
		Ⅲ基本方針	②郷土の文化を未来に継承、発展させる取組の推進		
	事業の目的・内容	【目的】市内の存在する国指定の天然記念物（スズラン・オオサンショウウオ・カザグルマ）を保護し再生を図る。 【内容】向淵スズラン群は、環境の変化により衰退傾向にあり、環境調査を行い、オオサンショウウオは、日本固有種の保護が急務であり、交雑個体の緊急調査を実施する。カザグルマは、自生地の生育環境が悪化しており、保全対策が必要である。			

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】スズランは、令和2年度より生育する群落の面積は増えたが、開花株数がやや減少した。カザグルマは、高木伐採等を行い、日照環境を確保するとともに林床環境を整備した。この効果は翌年度以降に影響するが、令和3年度において、開花数が48個に増加した。オオサンショウウオは、75個体を捕獲し、うち新規個体20個体の遺伝子鑑定を行い、うち2個体に交雑判定がでた。				
		【課題】天然記念物保護のための環境整備を続けていくことが必要である。				
	達成度	A	必要性	A	有効性	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	天然記念物の保護には、継続的に環境整備が必要と認められる。宇陀市の天然記念物を市民に公開し、郷土に愛着を感じ、興味をもってくれる人を発掘することも全体としての保護に役立つのではないかと考えられる。 昨年の点検評価を受けて、カザグルマの環境整備が実施されたことは大きな成果として評価できる。また、捕獲されたオオサンショウウオのうち新規個体の遺伝子鑑定を行ったことも、今後も継続していくことで意義深い取組になると思われるので、是非継続していただきたい。
------------	--

今後の取組	スズランについては、地元協力のもと生育調査を継続していく。		
	オオサンショウウオについては交雑種の拡散を防止するため環境調査を継続していく。		
	カザグルマについては高木の剪定は実施したが、継続的に剪定が必要であり、生育環境の改善を図っていく。		
		方針	2

※方針は次の1~5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート

令和4年度（令和3年度施策・実施事業分）点検評価シート				事業番号	42	
事業の情報	事業名	寄贈資料の管理運営事業			担当課	中央図書館
	教育大綱の位置付け	Ⅱ基本目標	④「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう			
		Ⅲ基本方針	②③宇陀のよさを次代へ継承、発展させる教育の推進			
	事業の目的・内容	【目的】図書館の貴重資料の閲覧を通じて玩槌文庫の魅力を紹介する。 【内容】 宇陀市に寄贈された約1万冊の貴重資料を宇陀市立図書館の蔵書として登録し、奈良カエデの郷ひららに玩槌（がんしゅく）文庫として開室する。また、玩槌文庫の管理運営を、奈良カエデの郷ひららに委託することにより、市民はもとより、ひらら来場者に対しても広く周知し閲覧いただく。				

担当課による自己評価	成果・課題	【成果】玩槺文庫の資料を、広く閲覧いただくため、奈良カエデの郷ひららと協議し、今年度から中央図書館・大宇陀図書館において玩槺文庫のコーナーを設置し、市民の方に文庫の魅力を伝えることができた。				
		【課題】今年度は、コロナ禍のため、玩槺文庫への来館者も少なかったが、今後は、更に多くの方々に文庫の魅力を伝えられるような工夫が必要である。				
	達成度	B	必要性	A	有効性	B

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い
「-」新型コロナウイルスの影響により事業実施不可

点検評価支援員の意見	寄贈資料については、魅力を伝えるため広報に工夫をしていただきたい。 「工夫が必要である」で終わらずに、どのように工夫していくのか具体的な方策を持たなければならないと思われる。例えば、中央図書館、大宇陀図書館に玩槷文庫のコーナーを設置したことは具体的な方策の一つである。他に何ができるのか考えたい。
------------	--

今後の取組	玩槭文庫コーナの設置を継続することで利用者が身近に感じ、さらに多くの方に関心をもっていただくために市の広報媒体等を通じて魅力を発信し、他の施設等での展示や自主放送等の活用も検討していく。

方	針	2
---	---	---

※方針は次の1～5の中から選択してください。1 さらに重点化する 2 現状のまま継続する
3 見直しの上、継続する 4 事業の縮小・休止を検討する 5 終了・完了

5 まとめ

宇陀市では、平成 28 年 3 月に宇陀市教育大綱を策定してから 4 年が経ち、その成果と課題を踏まえ、新たな宇陀市教育大綱を策定することになりました。この間、少子高齢化やグローバル化、高度情報化が一層加速するとともに、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大という未曾有の出来事が社会を震撼させています。このような複雑で予測困難な社会の中で、主体的にたくましく生きる力を育むために必要な教育の実現を目指して、宇陀市総合教育会議において協議を重ね、教育大綱をまとめました。

令和 3 年度は教育大綱に沿った事業の最初の年度です。めまぐるしく変化する社会にあっても、他者と協働しながら柔軟に対応できる人材の育成を目指し、ここに令和 3 年度の本市の教育施策を振り返り、次年度の施策に反映してまいりたいと考えています。

今後も、宇陀市の自然豊かな環境の中で、子どもたち一人一人が、自由に「夢」を描き、自己の可能性を追求し、地域社会の一員としてお互いを尊重しあえる豊かな人づくりへ施策を展開していく所存です。

【参考】

4 つの基本目標

- ・ 社会人としてよりよく「生きる力」を育てよう ～学校でのひとづくり～
- ・ 地域全体で子どもを見守ろう ～地域でのひとづくり～
- ・ 家庭の豊かな教育力を育もう ～家庭教育でのひとづくり～
- ・ 「郷土」を誇り、人権文化を創造しよう ～つながりづくり・生きがいづくり～